

ヘルスツーリズム研究会 講演内容まとめ

— 特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構 —

(発表日 第6回研究会 2006年9月20日)

1. 講演タイトル: 健康観光はヘルスプロモーションにどのように貢献できるのか

2. 所属機関および発表者名: 大阪大学医学系研究科保健学専攻 荒木田 美香子

3. 講演概要 ※記述はフォントサイズ (MS P明朝・11サイズ/50文字×30行以内、「である」調) でお願ひします。

1. ヘルスプロモーションについて

ヘルスプロモーション(以下、HP)とはWHO(世界保健機関)が1986年のオタワ憲章において提唱した新しい健康観に基づく21世紀の健康戦略であり、以下のように定義されている。

Health promotion is the process of enabling people to increase control over, and to improve their health.

「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」

また、HPは「すべての人びとがあらゆる生活舞台—労働・学習・余暇そして愛の場—で健康を享受することのできる公正な社会の創造」をめざす国家的な活動である。そして、その目標を実現させるための方法として、①健康な公共政策づくり、②健康を支援する環境づくり、③地域活動の強化、④個人技術の開発、⑤ヘルスサービスの方向性の転換—行政主体から住民参加の者へと転換・住民のエンパワメントをあげている。

2. これまでの日本のヘルスプロモーション政策と課題—健康日本21と健やか親子21

日本においては“健康づくり”という用語を用いた活動がなされてきた。第一次国民健康づくり対策(昭和53年～昭和62年)では母子・老人保健の健診体制の整備、第二次国民健康づくり対策(昭和63年～平成11年)ではアクティブ80ヘルスプランや栄養・運動・休養の生活習慣改善、第三次国民健康づくり対策＝健康日本21(平成12年～22年)では健康寿命の延伸、さらに健康増進法が平成15年に施行され、次いで健康フロンティア戦略(平成17年から27年)ががん・心疾患・脳卒中・糖尿病に重点を置き、発症率・死亡率の減少を目標に展開されている。また、子どもの健康日本21とも言えるものが健やか親子21であり妊娠・出産から思春期までの課題を挙げて取り組んでいる。健康日本21と健やか親子21はいずれも中間評価が行なわれた。喫煙率の減少、虫歯の減少、何らかの地域活動をしている人の割合(60歳以上)の上昇など成果の出た項目もあるが、①カルシウム摂取、②日常生活における歩数、③ストレスを感じた人の割合、④多量に飲酒する人の割合、⑤肥満傾向 児童・生徒 成人男性、⑥男性の高脂血症の人の割合は悪化しており、どのように取り組むかは大きな課題であり、産業界を巻き込んだ展開が必要である。

3. ヘルスプロモーションの文脈の中でヘルスツーリズムが求められるもの

ヘルスツーリズムが保持する要素としては、①効果がある健康サービス、②利用しやすい料金やシステム、③レジャーとしての楽しみ(非日常)が必要である。ヘルスプロモーションの文脈の中でヘルスツーリズムを展開しようとした場合、上の要素に加えて①地元の住民の日常生活にある、②住民に力を与える(エンパワメント)もので、実践的かつ自分も実行可で、人にも影響を与えるもの、③住民の主体的な参加により展開される、④政策の変更や後押しにより強化されるため行政の協力、規制の緩和、計画・戦略性というヘルスプロモーションの要素が加わる必要がある。つまり、自治体、産業、住民、Peer(仲間)集団といった組織的が連携する中で、ヘルスツーリズムが展開される必要がある。現時点では、自治体、産業が中心になっているものが多いが、そこに健康的な環境づくりに協力する住民や仲間集団が入ったとき、ヘルスツーリズムはHPの文脈の中で展開できよう。

※参考図表・写真等はこの枠内に貼り付けてくださいますようお願いいたします。